

Q：子供に安定ヨウ素剤を服用させませんでした、これから服用させてはいけませんか？

A：放射性物質のヨウ素 131 は、甲状腺に蓄積され、内部被曝により甲状腺癌になる恐れがあります。安定ヨウ素剤の服用は、その甲状腺に先に入り込み、後から侵入してくるであろう放射性ヨウ素 131 を阻止するのがその働きです。

ですから大分時間が経過してしまった 8 ヶ月も過ぎた現在では全く意味がありません。

安定ヨウ素剤は、個人輸入がありネットでも見かけますから、比較的容易に手に入ると思いますが、しかし、安易に手をださないことです。

本来は医師の処方箋が必要な劇薬であり、心配のあまり過剰に服用すると甲状腺機能障害やアレルギー反応、胃腸障害を引き起こす恐れがありますから、どうしても心配なら医師に相談し、その指示に従って下さい。

ヨウ素含有サプリメントはヨウ素と名が付いていますが、安定ヨウ素剤とは全く関係がない別物ですからご注意下さい。

では、内部被曝してしまったら諦めるしか方法はないのか、定期的に医師の検査があるはずですから、積極的に受診しましょう。

もし疑わしと診断されても、放射性物質・セシウム 137、タリウム等の排出を促す排泄に効果があるブルシアン・ブルーのような薬品もあります。

但し、服用に関しては放射線医学総合研究所への報告が義務付けられておりますから、医師の指示に必ず従い、素人判断での服用は危険で、副作用の恐れがあります。

国の関係機関にはそれなりの備蓄もあり、必要に応じて医療機関に配布されます。

ベラルーシの悲劇は、ソ連邦の崩壊、連邦から突如独立という社会的大変動の最中であつたので、政府機関がうまく作動せず、甲状腺癌の危険性を見逃してしまった悲劇でした。

隣国ポーランドは対応したので被害を免れています。

我が国の政府機関は一時的な混乱もありましたが、しっかりと機能してますし、担当大臣もいて十分に配慮しております。

ベラルーシの悲劇を繰り返すことは絶対にないと信じて下さい。

Q：甲状腺以外で注意しなければなら部位はどこですか？

A：放射性物質としてヨウ素、セシウム 137 等が有名で身体に害を与える代表になっていますが、この他にも多数の種類が存在します。

放射性ストロンチウム 89 と 90 が、原発近くの土壌から発見されました。ストロンチウムは沸点が 1382 度という高い沸点なので気化しにくく、飛散しないので、原発付近の土壌にあつたのでしょう。

## 放射線の人体への影響

確定的影響・・ある線量以上をあびると必ず起こる  
例：毛が抜ける、やけど 等

確率的影響・・少ない線量でも起こる場合がある  
例：がん、遺伝的影響 等

放射線は原子と原子の結合を切る力がある  
体中に浸透して、あちこちにミクロの傷をつける  
細胞分裂が盛んな組織(遺伝子が活発に動いている細胞)ほど影響を受けやすい  
遺伝子が完全に傷つけば組織が再生不能となる  
遺伝子が中途半端に傷つき、修復する過程でミスが起こるとがんや奇形が発生